

# 日本水産株式会社 第102期定時株主総会



## 第102期定時株主総会の開催について

2017年6月28日(水)、ロイヤルパークホテルを会場として、第102期定時株主総会を下記のとおり開催いたしました。

なお、総会での報告にあたって使用いたしました補足資料の概要、ならびに株主様からいただいたご意見・ご質問の要旨を、ご参考までに次ページ以降に掲載いたします。

## 記

1. 開会：2017年6月28日(水) 10時00分 終了時刻：11時29分

2. 当日出席株主数：1,030名

3. 議案：

### [報告事項]

1. 第102期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第102期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)計算書類の内容報告の件

### [決議事項]

第1号議案 取締役9名選任の件

第2号議案 監査役2名選任の件

議案は提案のとおり承認可決されました。



## (1)事業の経過および成果の概要

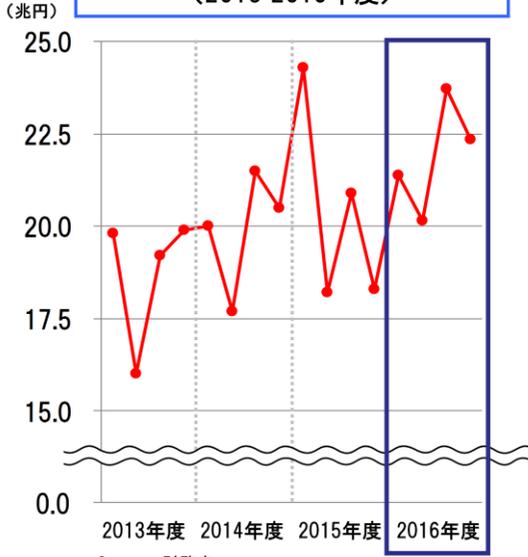
それでは、事業の経過および成果の概要につき  
ご説明いたします。

# 当期における事業環境



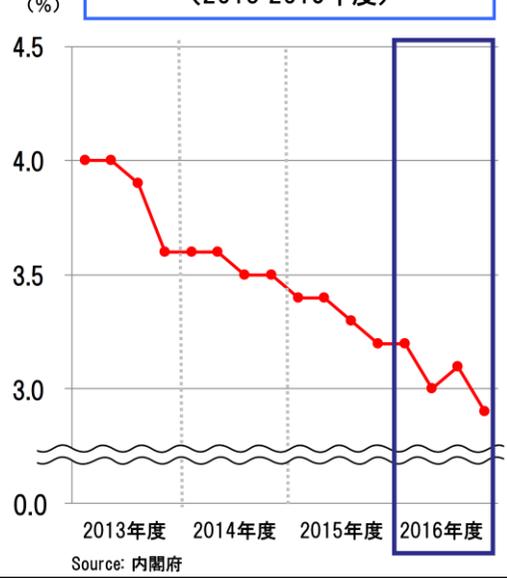
## ■ 企業収益の改善

企業経常利益(全産業)の四半期推移  
(2013-2016年度)



## ■ 雇用情勢の改善

完全失業率の四半期推移  
(2013-2016年度)

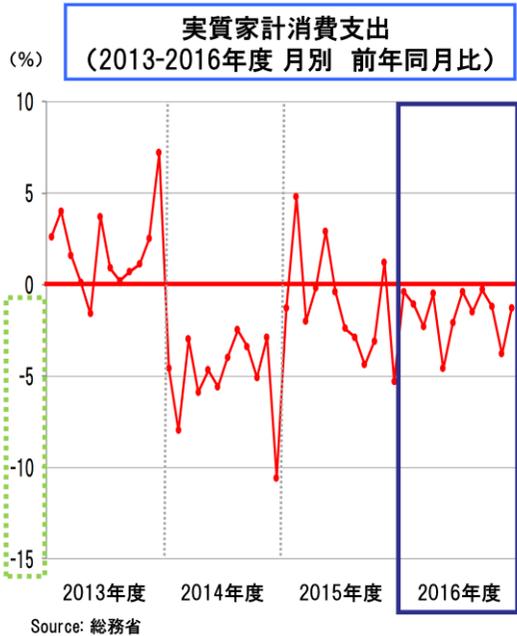


当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢が緩やかな回復基調で推移しました。

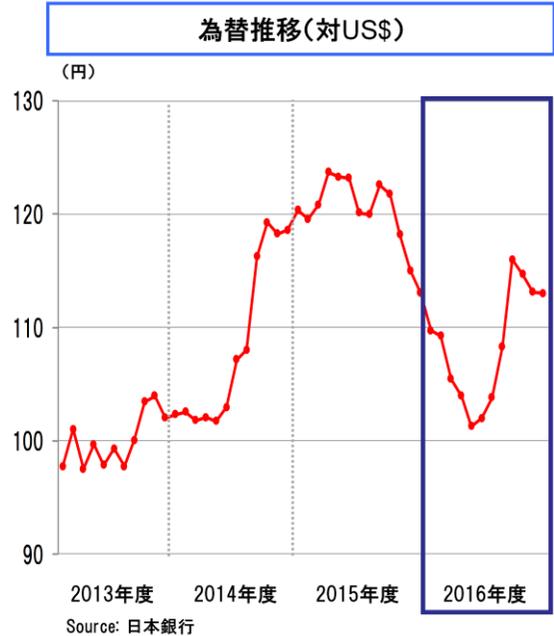
# 当期における事業環境



## ■ 個人消費に停滞感



## ■ 為替相場の不安定



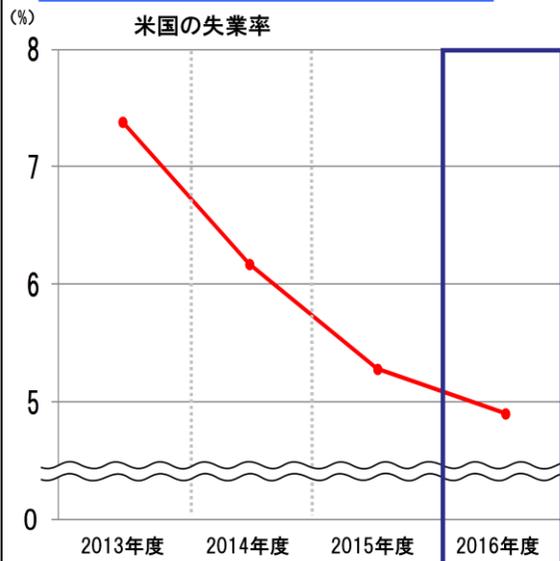
一方、消費者マインドには依然として足踏みが見られるとともに、為替相場の不安定さなどにより先行き不透明な状況が継続しました。

# 当期における事業環境



## ■ 米国の失業率の推移

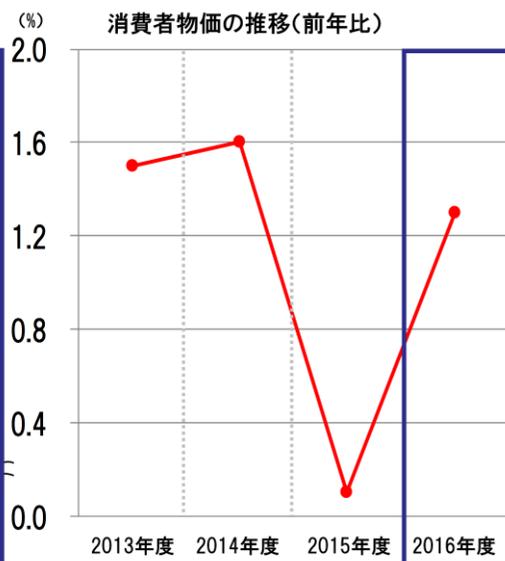
失業率の改善 (2013-2016年度)



Source: 内閣府 (海外は1-12月)

## ■ 米国の個人消費の推移

個人消費は増加傾向 (2013-2016年度)



Source: Bureau of Economic Analysis (海外は1-12月)

6

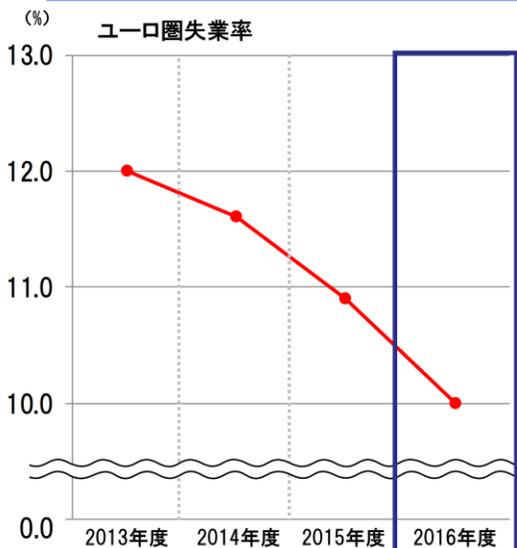
世界経済(連結対象期間1-12月)につきましては、米国では雇用情勢に改善が見られるとともに個人消費が増加しました。

# 当期における事業環境



## ■ 欧州の経済状況

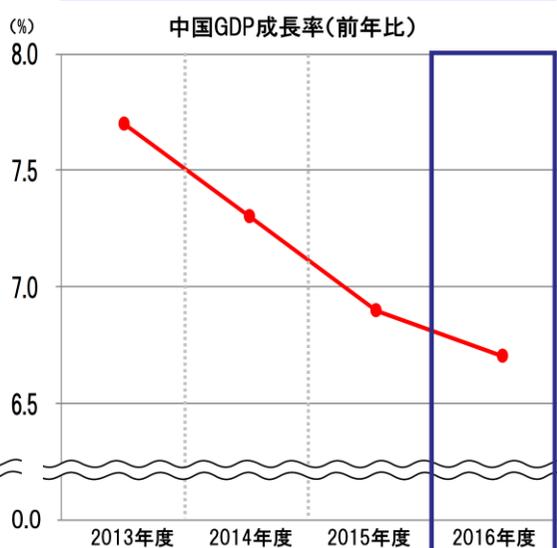
欧州では失業率の低下傾向が継続  
(2013-2016年度)



Source: 内閣府 (海外は1-12月)

## ■ 中国の経済状況

中国では景気は緩やかに減速  
(2013-2016年度)



Source: 内閣府 (海外は1-12月)

欧州でも失業率の低下傾向が継続するなど景気が改善傾向にありましたが、アジアでは中国において景気は緩やかに減速しました。

## 財産および損益の状況(連結)



### ■ 当期(第102期・平成28年度)

	当期	前期比増減	
売上高	6,359億 53百万円	▲12億 11百万円	▲99.8%
営業利益	226億 46百万円	+32億 4百万円	116.5%
経常利益	248億 84百万円	+41億 88百万円	120.2%
当期純利益	142億 16百万円	+19億 8百万円	115.5%
期末配当	3円 50銭	-	-

	当期	前期	前期比増減
年間配当	6円	5円	+1円

8

このような状況下で、当連結会計年度における営業成績は、  
 売上高は**6,359億53百万円**  
 (前期比**12億11百万円減**)、  
 営業利益は**226億46百万円**  
 (前期比**32億4百万円増**)、  
 経常利益は**248億84百万円**  
 (前期比**41億88百万円増**)、  
 親会社株主に帰属する当期純利益は  
**142億16百万円**(前期比**19億8百万円増**)となり、  
 期末配当金は**1株につき3円50銭**と致しました。

## 事業の概況

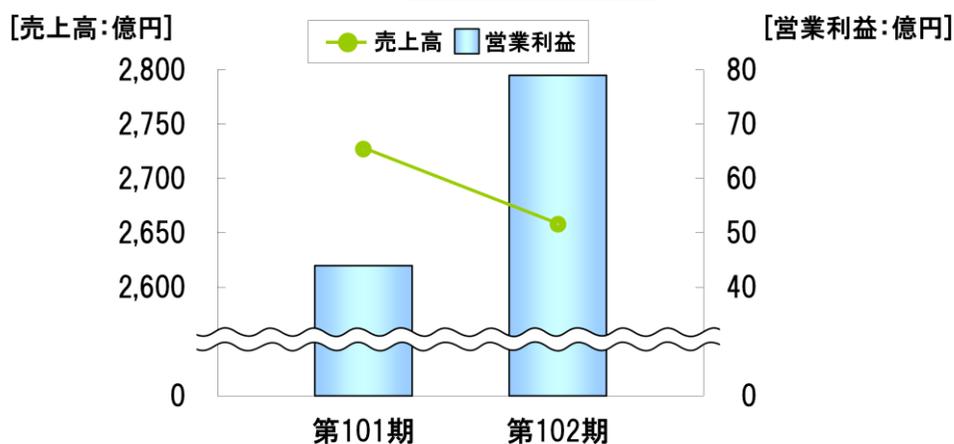
引き続きまして、事業の概況につきご説明いたします。

## 事業別の業績[水産事業]



### ■ 売上高・営業利益の推移

	第101期	第102期	前期比増減額
売上高	2,727億 40百万円	2,658億 69百万円	▲68億 71百万円
営業利益	44億 98百万円	79億 49百万円	+34億 51百万円



10

水産事業につきましては、漁撈事業、養殖事業、加工・商事事業を営んでおり、売上高は**2,658億69百万円**（前期比**68億71百万円減**）となり、営業利益は**79億49百万円**（前期比**34億51百万円増**）となりました。

# 事業別の業績[水産-漁撈事業・養殖事業]



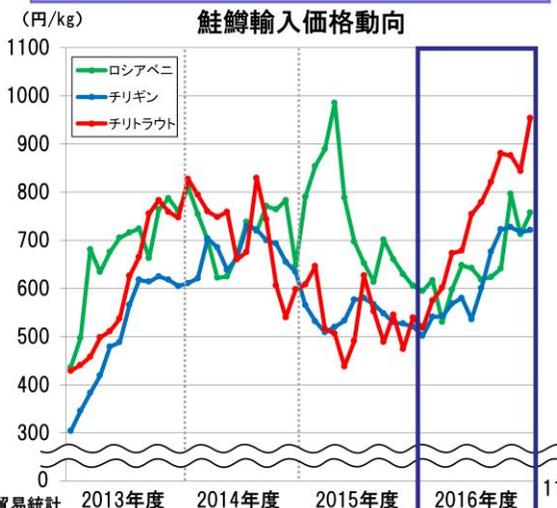
## ■ 漁撈事業 増収・増益 日本の漁撈事業

かつおやぶりの好漁に加え、修繕費や原油安による燃料費の減少



## ■ 養殖事業 減収・増益 南米の鮭鱒養殖事業

赤潮の発生による販売数量の減少があるも、販売価格の急速な回復に加え、在池魚評価が好転



漁撈事業では、

日本において、かつおやぶり等の漁獲が好調だったことに加え、修繕費や原油安による燃料費の減少などにより、増益となりました。

南米において、ほきの漁獲が低調となり、減収減益となりました。

養殖事業では、

日本において、まぐろの販売価格が下落したことに加え、ぶりの販売数量減少や鮭(さけ)鱒(ます)の原魚コスト増加などもあり、減益となりました。

南米において、鮭(さけ)鱒(ます)は赤潮の発生により販売数量が減少したものの、販売価格が急速に回復したことに加え、在池魚(ざいちぎょ)評価が好転したこともあり増益となりました。

## ■ 加工・商事事業 減収、減益

### 日本の加工・商事事業

魚粉などの販売価格が下落したものの、えびやすりみなどが好調に推移し増益



Source: 財務省貿易統計



Source: 財務省貿易統計

12

加工・商事事業では、

日本において、魚粉などの販売価格が下落したものの、えびやすりみなどが好調に推移し増益となりました。

## 事業別の業績[水産-加工・商事事業]



### ■ 加工・商事事業 減収、増益

#### 北米の加工事業

助子の卵率低下に加え、フィレやすりみの市況が低迷し減益



フィレの製造工程



#### 欧州の商事事業

販売は前期並みに推移したものの、為替の影響により、売上・利益ともに減少



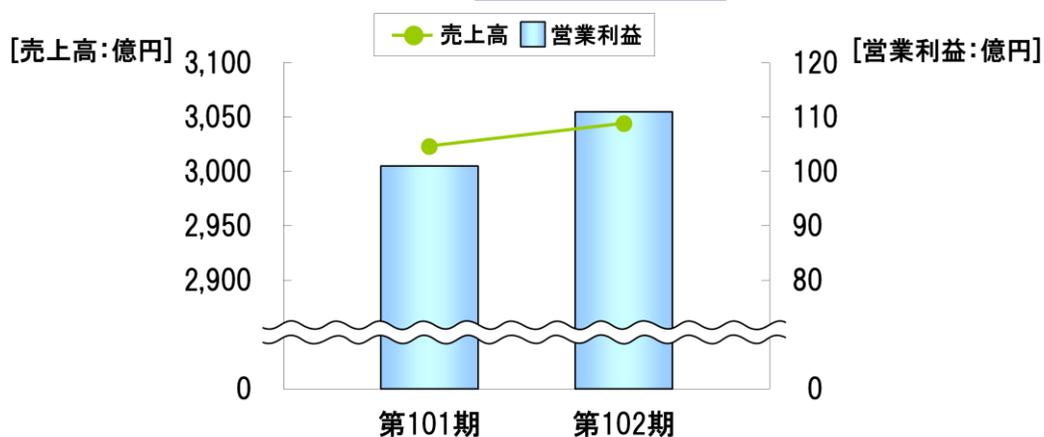
13

北米において、助子(すけこ)の卵率(らんりつ)低下に加え、フィレやすりみの市況が低迷し減益となりました。

ヨーロッパにおいて、デンマーククローネ高による為替換算の影響などもあり、減収減益となりました。

## ■ 売上高・営業利益の推移

	第101期	第102期	前期比増減額
売上高	3,023億 24百万円	3,044億 87百万円	+21億 63百万円
営業利益	101億 82百万円	111億 12百万円	+9億 30百万円



14

食品事業につきましては、加工事業およびチルド事業を営んでおり、  
 売上高は**3,044億87百万円**  
 (前期比**21億63百万円**増)となり、  
 営業利益は**111億12百万円**  
 (前期比**9億30百万円**増)となりました。

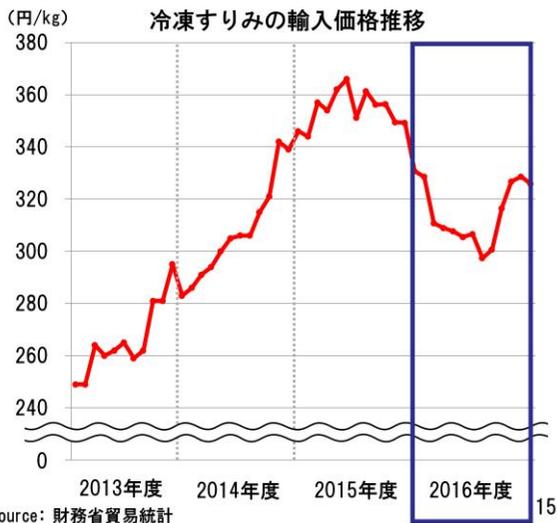
# 事業別の業績[食品-加工事業]



## ■ 加工事業 増収、増益 日本の加工事業

冷凍食品・練り製品などの販売が好調に推移

円高の影響による原材料や加工製品などの輸入コストの減少



加工事業では、

日本において、冷凍食品や練り製品などの販売が好調に推移したことに加え、円高の影響による原材料や加工製品などの輸入コストの減少などにより増益となりました。

## 事業別の業績[食品-加工事業・チルド事業]



### ■ 加工事業 減収、増益 北米の加工事業

家庭用冷凍食品は最需要期となる第1四半期での主力商品の販売不振の影響が大きく、減益

Gorton's社  
(家庭用冷凍食品)



### 欧州の加工事業

販売数量増加により増収となったものの、為替換算の影響などもあり減益

Cite Marine社  
(フランス)



### ■ チルド事業 増収、増益 日本のチルド事業

コンビニエンスストア向けチルド弁当やサラダなどの販売伸長や生産性の向上



上: 日本クッカーリー船橋工場(チルド)  
下: チルド製造工程

16

北米において、家庭用冷凍食品会社では最需要期となる第1四半期での主力商品の販売不振の影響が大きく、減益となりました。

ヨーロッパにおいて、販売数量増加により増収となったものの、為替換算の影響などもあり減益となりました。

チルド事業では、

日本において、コンビニエンスストア向けサラダや惣菜などの販売が伸長し、生産性も向上したことで増益となりました。

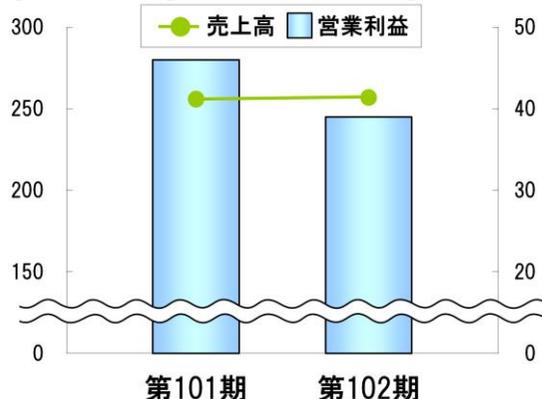
## 事業別の業績[ファイン事業]



### ■ 売上高・営業利益の推移

	第101期	第102期	前期比増減額
売上高	256億 83百万円	257億 96百万円	+1億 13百万円
営業利益	46億 33百万円	39億 76百万円	▲6億 57百万円

[売上高:億円] [営業利益:億円]



鹿島医薬品工場  
(竣工:2017年5月、稼働予定:2018年1月)

17

ファイン事業につきましては、医薬原料、機能性原料、機能性食品、および医薬品、診断薬の生産・販売を行っており、

売上高は**257億96百万円**

(前期比**1億13百万円**増)となり、

営業利益は**39億76百万円**

(前期比**6億57百万円**減)となりました。

# ファインケミカル事業：各事業の内訳



<p><b>医薬原料</b></p> <p>医薬品</p> <p>魚油を高純度に精製して製薬会社へ医薬品原料として供給</p>	<p><b>機能性原料</b></p> <p>サプリメントなど</p> <p>魚油を精製して、他社の健康食品の原料として供給</p>
<p><b>機能性食品・通販</b></p> <p>通販</p> <p>物販</p> <p>当社の健康食品のラインアップ</p>	<p><b>臨床診断薬・産業検査薬</b></p> <p>細菌検査用試薬</p> <p>菌数測定用の乾式簡易培地</p>

医薬原料において後発品使用促進策の影響があり、販売数量が減少し減益となりました。

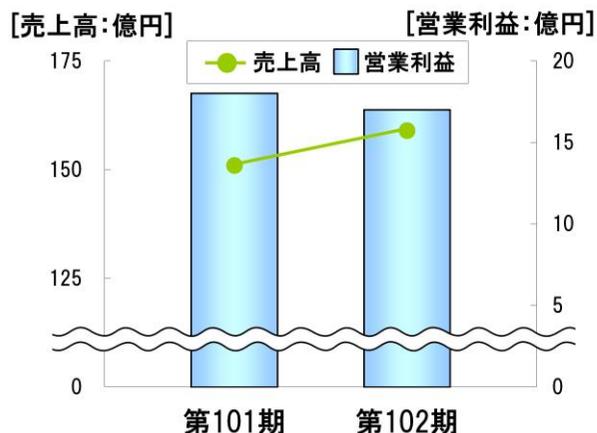
臨床診断薬、産業検査薬などにおいて、販売が順調に推移したものの、製造原価などのコストが上昇し減益となりました。

# 事業別の業績[物流事業]



## ■ 売上高・営業利益の推移

	第101期	第102期	前期比増減額
売上高	151億 87百万円	159億 82百万円	+7億 94百万円
営業利益	18億 54百万円	17億 99百万円	▲55百万円



日水物流・大阪舞洲物流センター(設備能力:約25,400㎡)  
2016年3月竣工、同4月より営業開始

物流事業につきましては、冷蔵倉庫事業、配送事業、通関事業を営んでおり、大阪舞洲(まいしま)物流センター新設により売上高は増加したものの、減価償却費及び開設初期費用の発生などにより減益となりましたので、  
売上高は**159億82百万円**  
(前期比**7億94百万円**増)となり、  
営業利益は**17億99百万円**  
(前期比**55百万円**減)となりました。

## (2) 対処すべき課題

→お手許の招集ご通知の6~9ページをご覧ください

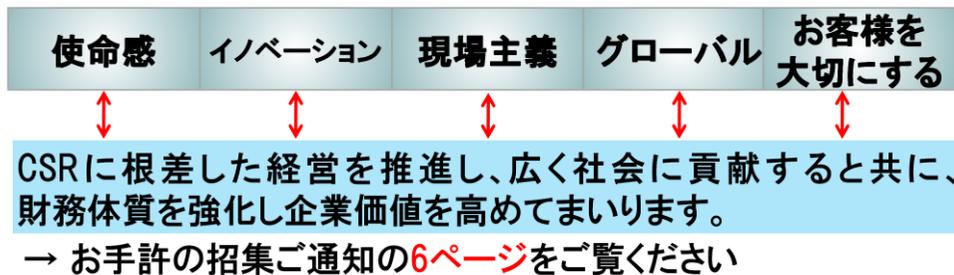
引き続きまして、対処すべき課題のご説明を致します。  
招集ご通知の6ページから9ページをご覧ください。

■ 変化に対応し、

差別化できる独自の技術力を持つメーカーをめざします

- ① 成長に向けた積極的な投資
- ② 資源アクセス力の強化
- ③ 健康機能食品・高付加価値商品の提供
- ④ 海外でのパフォーマンスの拡大  
(北米・ヨーロッパに続きアジアに注力)

創業以来受け継いできた5つの企業遺伝子



当社および当社グループにおいて、中期経営計画「MVIP2017」(平成27年度～29年度)の二年目である平成28年度は、

南米の鮭(さけ)鱒(ます)養殖事業における販売価格の急速な回復や、食品事業では販売が好調に推移したことに加え原材料輸入コストの減少もあり、

昨年に引き続き、計画を上回る進捗となりました。

最終年度である平成29年度も、変化に対応し差別化できる独自の技術力を持つメーカーを目差すべく、

- ① 成長に向けた積極的な投資、
- ② 資源アクセス力の強化、
- ③ 健康機能食品・高付加価値商品の提供、
- ④ 海外でのパフォーマンスの拡大

に引き続き取り組んでまいります。

また、当社は、創業以来受け継いできた5つの遺伝子である「使命感」・「イノベーション」・「現場主義」・「グローバル」・「お客様を大切にする」のもと、

CSRに根差した経営を推進し、広く社会に貢献すると共に、財務体質を強化し企業価値を高めてまいります。

■ 戦略展開のポイント

事業の枠を超え  
事業境目領域で融合・連携  
を深め拡大し成長する

**FC事業**

- ・医薬品の拡大
- ・機能性原料の海外展開
- ・機能性食品の拡大

**海外(グループ)**

和食を中心とした成長

**食品事業**

- ・No1カテゴリーの進化
- ・新カテゴリーでの惣菜型商品展開

通信販売

魚油

**機能性表示食品**

- ・調味料
- ・近海魚の活用
- ・水産品食材化
- ・惣菜(HMR)、メニュー
- ・鮭鱒・魚卵の拡大
- ・すりみの利用拡大
- ・海外販売

**水産事業**

- ・養殖事業の深化
- ・養殖鮭鱒の拡大
- ・短期養殖の事業化

エンジニアリング

海洋事業

ロジスティックス

R&D:開発機能の強化、養殖技術の深化、工場ラインの最適化

QA:フードディフェンスの深化 CSR:コーポレートガバナンス強化、コーポレートブランド検討

→ お手許の招集ご通知の7ページをご覧ください

主な事業戦略、中期経営計画MVIP2017の目標とする姿、主要事業の戦略、財務・配当戦略につきましては、

お手許の招集ご通知に記載のとおりでございますので、ご説明を省略させていただきます。

## 中期経営計画MVIP2017の数値目標



### ● Key Performance Indicator(重要業績評価指標)

KPI(連結)	2017計画	2016実績
(億円) 売上高	6,800 以上	6,359
営業利益	230 以上	226
EBITDA	415 以上	399
自己資本比率	25% 以上	26.8%
ROA	3.5% 以上	3.5%
借入金	2,400 以下	2,077

※ROA = 「当期純利益」+「支払利息」×(1-実効税率) / {(前期末「資産合計」+当期末「資産合計」)÷2}

→ お手許の招集ご通知の8ページをご覧ください

→ 中期経営計画「MVIP2017」における主要事業および財務・配当戦略につきましては、お手許の招集ご通知の8~9ページをご覧ください

23

なお、平成28年度において、平成28年9月5日を払込期日とする公募増資、および同年9月27日を払込期日とする第三者割当増資による新株式発行を行いました。その結果、招集ご通知10ページおよび14ページに記載のとおり、総額139億11百万円の資金調達を行い、発行済株式の総数は3,522万株増加しております。

- (3) 設備投資の状況
- (4) 資金調達の状況
- (5) 直前3事業年度の財産および損益の状況
- (6) 重要な子会社の状況
- (7) 主要な事業内容
- (8) 主要な営業所および工場
- (9) 従業員の状況
- (10) 主要な借入先の状況
- (11) その他企業集団の現況に関する重要な事項

→ お手許の招集ご通知の10 ~ 13ページをご覧ください

また、お手許の招集ご通知 10ページから13ページまでの事項につきましては、記載のとおりでございますので、ご説明を省略させていただきたいと存じます。

- (1) 株式の状況
- (2) 会社役員の状況
- (3) 会計監査人の状況
- (4) 業務の適正を確保するための体制
- (5) 会社の支配に関する基本方針
- (6) 剰余金の配当等の決定に関する方針

→ お手許の招集ご通知の14ページ～ 27ページをご覧ください

引き続きまして、会社の現況につきましては、

お手許の招集ご通知14ページから27ページまでに記載のとおりで  
ございますので、ご説明を省略させていただきたいと存じます。

# 第102期末連結貸借対照表(前期末比)



自己資本比率 '16/3 **21.3%** ⇒ '17/3 **26.8%**

流動資産 2,330 (+156)	流動負債 2,162 (+38)
固定資産 2,187 (▲94)	固定負債 944 (▲248)
総資産 4,518 (+61)	純資産 1,412 (+271)
	うち自己資本 1,209(+260)

主な増減要因(単位:億円)

資産	+61	流動資産	+156	現金及び預金	+146
				受取手形及び売掛金	+46
				原材料及び貯蔵品	▲25
		固定資産	▲94	有形固定資産	+55
				無形固定資産	▲10
				投資その他の資産	▲139 ※1
負債	▲210	流動負債	+38	支払手形及び買掛金	+12
				未払費用	+27
		固定負債	▲248	長期借入金	▲257
				繰延税金負債	+21
		純資産	+271	資本金・資本剰余金	+142 ※2
				利益剰余金	+126
				繰越ヘッジ損益	+8
				為替換算調整勘定	▲28 ※3

※1. 投資有価証券の減少 ▲128億円  
 ※2. 公募増資による資本金及び資本剰余金の増加 +139億円  
 (公募増資による自己資本比率への影響 +3.1%)

( )内の数字は前期末比増減

→ お手許の招集ご通知の28ページをご覧ください

次に、招集ご通知28ページにあります第102期連結貸借対照表の概要を、スクリーンに表示しております。

当期の総資産は、

**4,518億7,600万円**と、前期比約**61億円**増加いたしました。

総負債は、**3,106億7,100万円**と、前期比約**210億円**減少いたしました。

純資産の部におきましては、

純資産合計は、**1,412億500万円**と、前期比約**271円**増加いたしました。

- 連結損益計算書

- 連結株主資本等変動計算書

→ お手許の招集ご通知の29ページ～30ページをご覧ください

- 貸借対照表(個別)

- 損益計算書(個別)

- 株主資本等変動計算書(個別)

→ お手許の招集ご通知の31ページ～33ページをご覧ください

なお、第102期連結計算書類のうち、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書につきましては、お手許の招集ご通知

29ページから30ページに、

個別の計算書類の貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書につきましては、

31ページから33ページまでに

記載のとおりであり、ご説明を省略させていただきたいと存じます。

# 議案の上程

→ お手許の招集ご通知の**37ページ~43ページ**をご覧ください

候補者番号	氏名	生年	性別	学歴	職歴
3	荃 明 世	昭和28年11月9日生	男	東京大学	当に入社 同水産営業部長 同代表取締役社長 同代表取締役退任 NIPPON SUISAN(U.S.A),INC. 取締役社長 当社北米事業執行 同取締役 同取締役退任 同執行役員 同水産事業執行 同水産事業第一部長 同水産事業執行
<p>■所有する当社株式の数：35,000株</p> <p>平成24年6月 同取締役執行役員 平成25年11月 同北米事業執行 平成25年11月 NIPPON SUISAN(U.S.A),INC. 取締役社長 平成27年6月 同水産事業執行 平成27年6月 NIPPON SUISAN(SINGAPORE) PTE, LTD.取締役社長 現在に至る (現在当社取締役執行役員 水産事業執行)</p> <p>【重要な職歴の状況】 平部水産株式会社 監査役 NIPPON SUISAN(SINGAPORE)PTE, LTD.取締役社長</p> <p>■取締役候補者とした理由 当社および国内外グループ会社において、長年にわたり幅広く水産事業に従事し、平成24年より取締役執行役員水産事業執行として陣頭指揮を執っています。水産事業に関する深い知識・経験・洞察力とともに、当社の主要3事業の項目となる分野での柔軟性を進めための柔軟性・創造性をもち、経営全般の適切な監督ができるバランス感覚を有することから、引き続き取締役候補者となりました。</p>					
4	関 口 洋 一	昭和32年1月5日生	男	早稲田大学	当に入社 同ファインケミカル部長 同ファインケミカル事業部長 同取締役 企業経営ファインケミカル株式会社代表 取締役 同取締役退任 同執行役員
<p>■所有する当社株式の数：30,400株</p> <p>平成25年4月 同ファインケミカル事業執行 平成26年6月 同取締役 平成27年6月 同取締役執行役員 現在に至る (現在当社取締役執行役員 ファインケミカル事業執行)</p> <p>【重要な職歴の状況】 日本製薬株式会社取締役 TN FINE CHEMICALS, COLTD.取締役会長</p> <p>■取締役候補者とした理由 当社およびグループ会社において、長年にわたりファインケミカル事業に携わり、平成27年より取締役執行役員ファインケミカル事業執行として、高度成長中心とした水産事業以外の幅広い品類の製造・販売事業を牽引しています。ファインケミカル事業に関する深い知識・経験・洞察力とともに、当社の主要3事業の項目となる分野での融合を進めするための柔軟性・創造性を有することから、引き続き取締役候補者となりました。</p>					

- ① 招集ご通知
- ② 議案の審議
- ③ 議案の採決
- ④ 株主総会
- ⑤ 議案の採決
- ⑥ 議案の上程
- ⑦ 議案の採決
- ⑧ 議案の上程
- ⑨ 議案の採決
- ⑩ 議案の上程
- ⑪ 議案の採決
- ⑫ 議案の上程
- ⑬ 議案の採決
- ⑭ 議案の上程
- ⑮ 議案の採決
- ⑯ 議案の上程
- ⑰ 議案の採決
- ⑱ 議案の上程
- ⑲ 議案の採決
- ⑳ 議案の上程
- ㉑ 議案の採決
- ㉒ 議案の上程
- ㉓ 議案の採決
- ㉔ 議案の上程
- ㉕ 議案の採決
- ㉖ 議案の上程
- ㉗ 議案の採決
- ㉘ 議案の上程
- ㉙ 議案の採決
- ㉚ 議案の上程
- ㉛ 議案の採決
- ㉜ 議案の上程
- ㉝ 議案の採決
- ㉞ 議案の上程
- ㉟ 議案の採決
- ㊱ 議案の上程
- ㊲ 議案の採決
- ㊳ 議案の上程
- ㊴ 議案の採決
- ㊵ 議案の上程
- ㊶ 議案の採決
- ㊷ 議案の上程
- ㊸ 議案の採決
- ㊹ 議案の上程
- ㊺ 議案の採決
- ㊻ 議案の上程
- ㊼ 議案の採決
- ㊽ 議案の上程
- ㊾ 議案の採決
- ㊿ 議案の上程
- 1 議案の採決
- 2 議案の上程
- 3 議案の採決
- 4 議案の上程
- 5 議案の採決
- 6 議案の上程
- 7 議案の採決
- 8 議案の上程
- 9 議案の採決
- 10 議案の上程
- 11 議案の採決
- 12 議案の上程
- 13 議案の採決
- 14 議案の上程
- 15 議案の採決
- 16 議案の上程
- 17 議案の採決
- 18 議案の上程
- 19 議案の採決
- 20 議案の上程
- 21 議案の採決
- 22 議案の上程
- 23 議案の採決
- 24 議案の上程
- 25 議案の採決
- 26 議案の上程
- 27 議案の採決
- 28 議案の上程
- 29 議案の採決
- 30 議案の上程
- 31 議案の採決
- 32 議案の上程
- 33 議案の採決
- 34 議案の上程
- 35 議案の採決
- 36 議案の上程
- 37 議案の採決
- 38 議案の上程
- 39 議案の採決
- 40 議案の上程
- 41 議案の採決
- 42 議案の上程
- 43 議案の採決
- 44 議案の上程
- 45 議案の採決
- 46 議案の上程
- 47 議案の採決
- 48 議案の上程
- 49 議案の採決
- 50 議案の上程
- 51 議案の採決
- 52 議案の上程
- 53 議案の採決
- 54 議案の上程
- 55 議案の採決
- 56 議案の上程
- 57 議案の採決
- 58 議案の上程
- 59 議案の採決
- 60 議案の上程
- 61 議案の採決
- 62 議案の上程
- 63 議案の採決
- 64 議案の上程
- 65 議案の採決
- 66 議案の上程
- 67 議案の採決
- 68 議案の上程
- 69 議案の採決
- 70 議案の上程
- 71 議案の採決
- 72 議案の上程
- 73 議案の採決
- 74 議案の上程
- 75 議案の採決
- 76 議案の上程
- 77 議案の採決
- 78 議案の上程
- 79 議案の採決
- 80 議案の上程
- 81 議案の採決
- 82 議案の上程
- 83 議案の採決
- 84 議案の上程
- 85 議案の採決
- 86 議案の上程
- 87 議案の採決
- 88 議案の上程
- 89 議案の採決
- 90 議案の上程
- 91 議案の採決
- 92 議案の上程
- 93 議案の採決
- 94 議案の上程
- 95 議案の採決
- 96 議案の上程
- 97 議案の採決
- 98 議案の上程
- 99 議案の採決
- 100 議案の上程

引き続きまして、全ての議案を括して上程し、その内容をまとめてご説明いたします。

その後で、ご質問・ご意見等を含め、議案の審議をご出席の株主様をお願いすることといたします。

議案につきましては、招集ご通知右はしの濃い赤の見出し「株主総会参考書類」で表示しております

37ページから43ページをご覧ください。

なお、44ページ記載の第3号議案『補欠監査役1名選任の件につきましては、候補者ご本人より辞退の申し出がありましたので、

本日開催の取締役会において取下げることと決議いたしました。同議案取下げにつきましては、あらかじめ監査役会の同意を得ております。

# 第1号議案

## 取締役9名選任の件

→ お手許の招集ご通知の37ページ～41ページをご覧ください

それでは、  
第1号議案『取締役9名選任の件』  
でございます。

- 平成29年6月28日の本総会終結をもって取締役9名全員が任期満了となります。

つきましては、取締役9名の選任をお願いいたしたいと存じます。

本総会終結の時をもって取締役9名全員が任期満了となります。  
つきましては、取締役9名の選任をお願いいたしたいと存じます。

**■ 取締役候補者氏名**

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ①細見 典男 (重任) | ⑥高橋 誠治 (重任) |
| ②大木 伸介 (重任) | ⑦浜田 晋吾 (新任) |
| ③的埜 明世 (重任) | ⑧大木 一夫 (新任) |
| ④関口 洋一 (重任) | ⑨横尾 敬介 (新任) |
| ⑤山本 晋也 (重任) |             |

取締役候補者の氏名・略歴・選任理由等につきましては、  
お手許の招集ご通知37ページから41ページに記載のとおりであり、  
各候補者からはあらかじめ就任の承諾を得ております。

## 第2号議案 監査役2名選任の件

→ お手許の招集ご通知の42～43ページをご覧ください

32

次に、第2号議案『監査役2名選任の件』でございます。

監査役 横尾 敬介、樋口 収の2名が本総会終結の時をもって任期満了となりますので、

社外監査役2名の選任をお願いいたしたいと存じます。

■ 監査役候補者氏名

小澤 元秀 (新任)

伊豫田 敏也 (新任)

監査役候補者の氏名・略歴・選任理由等につきましては、お手許の招集ご通知  
42ページから43ページに記載のとおりであり、

候補者からはあらかじめ就任の承諾を得ているとともに、本議案の提出につきま  
しては、

あらかじめ監査役会の同意を得ております。

第102期定時株主総会において、8名の株主様より次の事項についてご発言がありました。

- 【質問事項】
1. 海外販売の状況について
  2. 為替動向が会社に及ぼす影響について
  3. 養殖事業全般について
  4. ファイン事業の医薬品原料と競合後発品について
  5. 公募増資・第三者割当増資について
  6. 過年度に係る決算の訂正について
  7. 北米の家庭用冷凍食品事業について
  8. 水産資源の無駄のない活用について
  9. フードロスに係る取り組みについて
  10. 今後の成長戦略・R&D戦略について
  11. 中期経営計画(MVIP2017)3か年における投資計画について
  12. 第3号議案の取り下げについて
  13. ファイン事業医薬品原料の製品について
  14. 東京イノベーションセンターなどでの研究開発活動について
  15. イマークSの販売動向について